

## 生活設計概念の再検討

藤田由紀子 (財)生命保険文化センター)

目的： 生活設計には2種類あると考える。ひとつは、実際に人々が思い思いにたてているもの。もうひとつは、人々の生活に共通している出来事や標準的なライフサイクルを基に作られた枠組み、いわば普遍的・標準的な生活設計である。これらは、前者が変われば後者も変化する関係にある。さらに、前者の個々の生活設計は、個人や個々の家計が置かれている環境と密接に関わっている。したがって、重要な環境変化に直面すれば変わっていかざるをえないものと考ええる。そしてそれは結果的に、標準的枠組みをも変えていく。

今、生活価値観の変化やライフコースの多様化、経済環境等の激変による将来像の変化など、個人や家計をとりまく環境は大きく変化している。したがって、個々の生活設計、ひいては標準的生活設計もまた変わっていくのは必至と考える。現在の環境変化がもたらしている生活設計への影響と、今後それらがどう変化し、またどのようなものが変化しないのかについて検討することを研究目的とした。

結論： 現在の環境変化が個人の生活設計へ与える影響を検討していくなかで、これまでの生活設計概念において、普遍的なコンセプトとしての生活設計の目的と、変化していく環境対応的な枠組とを分けて考える必要性を認識した。さらに、今後の標準的生活設計においては、将来の不確実性が高まる中での、ライフデザインマネジメント、リスクマネジメント、リソースマネジメントという新たな基本的なコンセプトが浮かびあがってきた。